令和５年度　全国学力・学習状況調査結果（第６学年）及び分析・考察

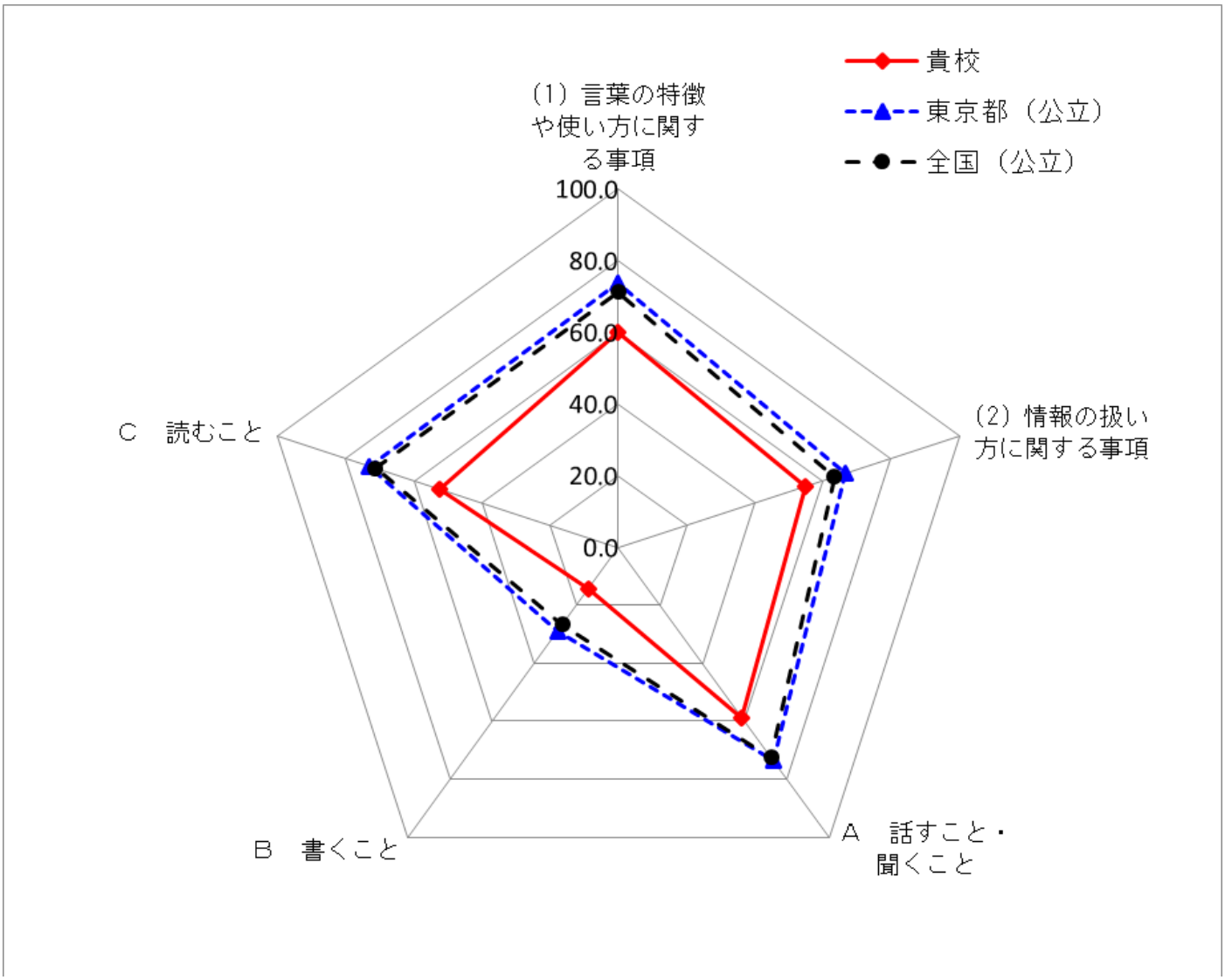
１　結果

【国語】

※青網掛けは、正答率６０％以上　橙網掛けは正答率３０％以下　赤網掛けは都の平均との差が２０％以上の箇所

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%） 三根小	都の平均との比較	東京都（公立）	全国（公立）
全体			14	54	−15	69	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.0	−13.6	73.6	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	54.8	−11.7	66.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項					
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	58.7	−14.8	73.5	72.6
		B　書くこと	1	14.3	−14.6	28.9	26.7
		C　読むこと	3	52.4	−20.8	73.2	71.2
評価の観点		知識・技能	7	58.5	−13.1	71.6	68.9
		思考・判断・表現	7	49.7	−17.3	67.0	65.5
問題形式		選択式	9	65.1	−10.8	75.9	73.6
		短答式	2	45.2	−21.2	66.4	62.7
		記述式	3	27.0	−24.4	51.4	51.1

国語〈学習指導要領の内容と平均正答率の状況〉

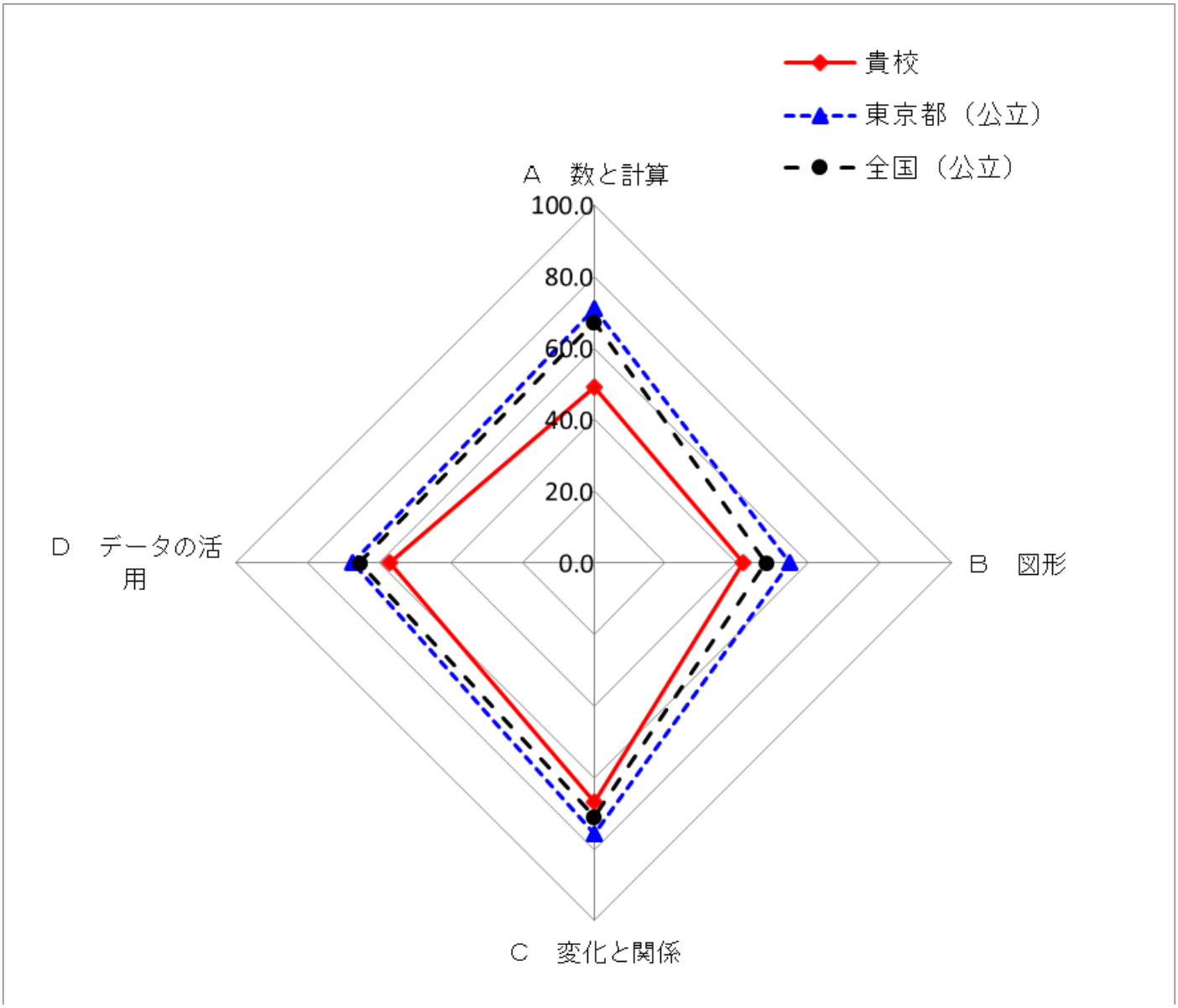


【算数】

※青網掛けは、正答率６０％以上　橙網掛けは正答率３０％以下　赤網掛けは都の平均との差が２０％以上の箇所

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）			
			三根小	都の平均との比較	東京都（公立）	全国（公立）
全体		16	51	−16	67	62.5
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	49.2	−21.8	71.0	67.3
	B　図形	4	41.7	−13.1	54.8	48.2
	C　測定					
	C　変化と関係	4	66.7	−9.1	75.8	70.9
	D　データの活用	3	57.1	−10.2	67.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	61.4	−10.1	71.5	67.2
	思考・判断・表現	7	38.8	−22.4	61.2	56.5
問題形式	選択式	5	50.5	−12.7	63.2	57.7
	短答式	7	65.3	−12.7	78.0	74.7
	記述式	4	28.6	−23.8	52.4	47.3

算数〈学習指導要領の内容と平均正答率の状況〉



2　分析および考察

【国語】

〇知識・技能に関する「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が６０％以上となっている。

〇選択式の問題正答率が６５．１％と、短答式や記述式に比べて高くなっている。

〇知識・技能に関する問題正答率が５８．５％と思考力・判断力・表現力等の問題正答率に比べて１０％以上も高くなっている。

▲学習指導要領の内容の中でも「B　書くこと」の正答率が１４．３％と極端に低くなっている。

▲記述式の問題の正答率が２７．０％と低くなっている。

▲学習指導要領の内容における「C　読むこと」の正答率、また短答式（主に漢字の書き）、記述式の問題における正答率が都の平均と比べて２０％以上も下回っている。

これらを受けて…

・書くこと（記述）への苦手意識が強く、また何を書いていいのか分からず取り組めなかったこと（無回答）が原因ではないか。

→実際、国語に関しては記述３問中すべての問題に取り組めた人（正否問わず）はわずかに５人で、全体の約２３％と非常に少なくなっている。

・短答式の問題は、漢字の書き取り（今年度は、意外・期間）となっているので、漢字の習熟や同音異義語や同訓異字語の理解が不十分になっている児童が多いのではないか。

→実際、漢字の書き取りに関しては記述２問中いずれの問題にも正答した人はわずかに５人で、全体の約２３％と非常に少なくなっている。

・複数の資料を見比べて必要な情報を読み取ったり、長文の中から要旨を掴んだりするといった読解の経験が乏しいのが原因ではないか。

【算数】

〇学習指導要領の内容における「C　変化と関係」の正答率が６５％以上となっている。

〇短答式の問題正答率が６５．３％と、選択式や記述式に比べて高くなっている。

〇知識・技能に関する問題正答率が６１．４％と思考力・判断力・表現力等の問題正答率に比べて２０％以上も高くなっている。

▲学習指導要領の内容の中でも「B　図形」の正答率が４１．７％と他に比べて低くなっている。

▲記述式の問題の正答率が２８．６％と低くなっている。

▲学習指導要領の内容における「A　数と計算」の正答率、また思考力・判断力・表現力等に関する問題、記述式の問題における正答率が都の平均と比べて２０％以上も下回っている。

これらを受けて…

・理由を明らかにして説明をしたり、論理立てて考えたりすること経験が乏しいのが原因ではないか。

→実際、記述４問中すべての問題に取り組めた人（正否問わず）は１２人で全体の約５７％と、国語と比べても高くなっており、取り組もうとした人は多いことがわかる。

・「B　図形」領域の正答率が低かった原因は、知識が定着していなかったこと以上に、資料が多く、題意をつかめなかったことが原因ではないだろうか。

→実際、知識技能の正答率は６０％以上を超えており、また「Ｂ　図形」領域における知識を問う問題も「台形の定義」「すべての辺の長さが等しい正方形」「正三角形のすべての角は６０度」といった程度の易しいものとなっている。

・図示されたものの中から必要な情報を読み取ったり、複数ある選択肢の中から適切なものを選んだりするといった読解の経験が乏しいのが原因ではないか。

3　今後の課題と改善策

【国語】では、漢字の読み書きといった基本的な知識（言語事項）のいっそうの定着を図ること、必要な資料をもとにして自分の考えを記述(発表)する機会を定期的に設けることが課題である。
【算数】では、解を導いた理由を説明させたり、途中式をきちんと書かせたりする習慣をつけること、また自分と異なる考え方に触れたり、その中でも共通点を見出したりすることが課題である。
【国語】【算数】両教科に共通する課題としては、今回のような問題形式に慣れること、消去法といった考え方を知ること、日ごろから時間配分を考えてワークテストに取り組むことなどが課題と言える。

改善策として…

◆授業導入時の「復習タイム（ｏｒ習熟タイム)」
授業開始時の５分間を活用し、漢字テストを行ったり、ミライシードに取り組んだりすることをとおして、確実に知識の定着を図るようにする。

◆授業展開時の「ペアで（みんなで）伝えタイム」
一斉指導の中では、挙手することへの抵抗がある児童も少なくない。ペアによる交流活動を設けたり、学級全体でロイロノートで共有したりすることをとおして、自分の考えを相手に伝える（より分かりやすく伝える）経験が十分できるようにする。

◆単元終了時のワークテスト時における「消去法」をはじめとする解法の紹介
選択肢における適切なものを選べずとも、確実に異なるものを消去していく方法で正答できることや長文の選択肢であっても文末（キーワード）に着目すれば選べることなどを意図的に指導していくようにする。